日本イエナプラン教育協会
ニュースレターVol.18
2013．4月号

発行元：日本イエナプラン教育協会
編集：田村　悠子
住所：〒155-0033
東京都世田谷区代田6-3-22-202
TEL：090-6002-8933　FAX：03-3466-3439
HP：　http://www.japanjenaplan.org/
mail：　Info@japanjenaplan.org

今回のニュースレターでは、会員の方がなぜイエナに魅かれたのか、どのような取り組みをされているのか、ご紹介させて頂きました。次号以降も、継続して皆様にお伝えできればと思っています。『日本の教育をもっと良くしていきたい』と思いを同じくしている仲間同士、ネットワークを広げていくきっかけとなれば幸いです。

編集（田村）

第17回

いじめについて、イエナプランの立場から考える

協会代表　リヒテルズ直子

「オランダのような国には、いじめはないのでしょうね」
という言葉を、日本から視察などに来られる方達の口からよく聞きます。でも、そんなことはありません。いじめは、オランダでも、日本でも、どこでもあり得ることです。ただ、いじめが起きた時にそこでいじめが起きていることを知りながら、大人が手をこまねいて何もしないままに放置するということは、オランダの場合、多分、日本に比べると、非常に少ないだろうなと思います。それは、いじめを、いじめられる子どもにとって、その子の健全な心の発達を妨げる悲惨な事態だと考えるのか、それとも、学校の対面・管理職者達の対面の問題を優先させるのかの違いによるのではないかと思います。そして日本では、その対面の方をなんとか繕うことに大人たちが躍起となって、子どもが苦しんでいるいじめそのものを正面から受け止めようとせず、根本的ないじめ根絶への取り組みを後回しにしてきたことに、大きな問題が潜んでいるように思われてなりません。

子どもとは、元来、いろいろな面で、未成熟で、発展途上の存在です。読み書き算を学ばなくてはならないのと同じように、社会的能力や、感情をコントロールすることも未完成で、学び練習しなければならないことがたくさんあるのです。けれども、産業化社会とともに発達してきた近代の学校では、こういう社会性や感情のコントロールなどといったものは、まるで、学校が行う教育の範囲にはないとでもいうかのように、軽視し、無視してきました。しかも、競争によって学力の高いものを選り分け、学力テストで良い点数を取る子どもだけを良い子・できる子とする教育は、社会性や情緒の発達を軽視したり、無視したりするだけではなく、学力競争に子ども達を追いたてながら、社会性や情緒面でのこの子たちの発達の場を、彼らから奪い続けてきたのです。

いじめには「いじめる子」と「いじめられる子」とがいるとよく言われます。「いじめる子」には、弱いものいじめをしないようにと叱り、「いじめられる子」には、いじめられたぐらいでクヨクヨメソメソするなと励ます、、、、かつて、日本の文科大臣は、いじめを苦に自殺する子供達の数があまりに多いことに対して
「どうかいじめで自殺をするのはやめてください」
と、請願書をしたためたほどです。とんでもない話ですよね。いじめが起きた時に、それはいけないことなのだから、こういう行動をするように、と指導し励ますどころか、教育行政の首長ともあろう人が、自らいじめられている子に、我慢して自殺などしてくれるなと自分の無力を露呈したといったのも同然なのですから。

出典元：インターネット写真素材【足成】

いじめには、いじめる子といじめられる子の他に、それを見ている何人もの他の子ども達がいます。実は、そこでただ見ている不特定多数の「他の」子ども(や大人)がいないところでは、いじめは起きようがないと言います。なぜなら、いじめは、それ自体、いじめられる子を犠牲にして行われる、不特定多数の他の子ども達への「示威」行為に他ならないからです。誰か「第三者」に強さ・恐ろしさを見せつけることで、自分に刃向かおうとする者を手なづけるために行う行為だからです。そして、いじめが持続する集団、つまり、第三者が口を閉ざし、いじめの存在に対して見て

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

見ぬ振りを続ける集団は、共同体としての紐帯を持たない、弱い集団であると言わざるを得ません。同時に、悪いと分かっていても「口を閉ざす」ことしかできない、恐怖支配の社会が子ども達の社会になっているということでもあるのです。

悪いことをはっきり悪いと言えず、いじめが起きていても、その行為に大人が毅然とした態度を取らず、いじめられる子に我慢せよと言う。不登校の子どもを無理やり引っ張り出して登校さえさせればそれでことが済んでしまう。そういう大人たちの欺瞞を、子ども達はどんな思いで見ているのでしょうか。そういう上辺だけ何事もないかに見える教室の中で、いじめ、いじめられ、それを見ている子供達は、本当に奇譚なく自分の意見を言い、人の話に耳を傾けて、協力して生きて行く社会の練習は、どこですれば良いのでしょうか。

イエナプランでは、毎日、数回、クラスの子ども達が、輪を作って対話します。子どもたちは、皆、平等な関係、誰ひとりとして、他の人よりも価値が低いと見られることのない対等な関係で、ひとりひとり、皆、顔をあげ、目を見ながら話をする関係にあります。毎日こういう対話を続けてクラスが擬似家族のような関係を築いているので、仮に小さないじめが起きても、すぐにわかるのです。口をつぐんでしまっている子、クラスメートから目を逸らす子がいれば、そこで、何が起きたのだろう、いじめが起きているかもしれないとすぐに察することができるのです。それでも、いじめは起きるかもしれない、、、でも、起きた時には、このサークル対話の中で、オープンに子どもたちが、自分たち自身の問題として話し合い、解決の道を探すように、グループリーダーは指導するでしょう。なぜなら、いじめが起きるかどうかは、教員がどんなに一方的に「楽しく愉快な明るい」学級を作っているかどうかということにではなく、子ども達自身が、自分たちの社会に当事者として責任を持って関わっているかどうかに強くかかっているからです。

もちろん、いじめ自殺を引き起こした学校の教員や管理職者たちが、責めを負うのは当然です。しかし、それは、教員が大人だけの知恵や努力で子どもたちをうまく統制できなかったことへの責めではなく、子ども達に対して、自分で自分が属する社会に対して責任を持つように指導できなかったことに責めを求められるべきなのです。校則を強化していじめを押さえつけるのではなく、子ども達自身に、いじめについて実際に考えさせ、それが、どんな不幸な帰結を生むかを、大人がそばにいながら、一緒に考えてやらなくてはならないはずなのです。そういう場と時間を、一般の学校はどれだけ真剣に用意しているでしょうか。

イエナプランの創始者ペーターセンの言葉を思い出してください。**「恐れや強制によって起きる良い行動」**には、何の意味もないのです。

そう考える時、明らかに浮かび上がってくる大きな問題があります。それは、私たち大人が、自分が属する社会を誰にとっても心地の良い、インクルーシブな社会とすべく当事者として努力をしているかということです。校長と教職員の関係、教員同士の関係は、本当に、お互いの人間としての価値を平等に認め合った暖かい関係であるのかどうか、保護者と教員とは、お互いの権利や専門性を尊重しあっているのか、大人である私たちが、地位や職業や生い立ちによって分け隔てすることなく受け入れあっている関係なのかどうか、、、子ども社会のいじめは、大人社会の反映であると言っても過言ではありません。

社会性と情緒のコントロールを子どもたちに育もうとしている私たち大人が、実は、嫉み、憎しみ、疎外、無視と言った行為を自分たちも実際にし、また、自分に対して行われる、そういう他者の不当な行為を黙って「我慢して」受け入れている。そういう大人たちの姿が、子ども達の希望をどれほど閉ざしていることか、、、、。私たちは、そうやって、長い長い間、悪いとわかっていても、それが世間というものだ、大人になるとはそういうことなんだと既存の習慣を受け入れてきたのではないでしょうか。でも、それでは、社会は、一向により良いものにはなっていかない。違いますか。

だから、イエナプランでは、学校を「生と学びの共同体」と考え、子ども達の濁りのない心のままに、みんなが生きやすい、共に協力して生きる理想の民主社会を、学校を舞台として実現しようとするのです。大人よりも、もっと純粋で、理にかなったものの考え方をする子どもたちの言葉に、耳を貸そうとするのです。

Photo:リヒテルズ直子

よく、異年齢学級だの、リズミックな時間割だのというイエナプラン教育の特徴を聞いて、「そんなものは、今の日本の学校制度では無理ですよ」とハナから諦めてしまう人の言葉を聞きます。「今の制度でもまだできることはありますよ」「教室の中だけでなんとかやって見ます」と。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

でも、イエナプランは、そんなに簡単に現状に妥協するものではありません。イエナプランがいう「オープンモデル」は、妥協のためにあるのではありません！ イエナプランが目指しているのは、すべての人が皆安心して自分の意見を言え、他の人の言葉に真剣に耳を傾け、誰をも排除することなく、それぞれが、それぞれの持って生まれた才能や性格を生かして参加し、受容しあって、この社会をもっと良くするために協力して関わっていく、そういう社会なのです。

だから、イエナプランには終わりがありません。いつも、新たにやってくる新しい子ども達が、新たな社会作りに取り組んで行きます。なぜなら、新しい時代には、いつも、今まで誰も見たことがない新しい問題が待っているからです。

いじめを放置することが、どれほど、子ども達から、幸福に生きて行くための練習の場を閉ざすことになるのか、お分かりいただけたでしょうか。いじめは、いじめる子といじめられる子だけの問題ではないのです。いじめを許容する社会に生きていることそのものが、わたしたちの不幸そのものなのです。子どもたちのいじめは、未成熟な人間だからしかたがないことです。でも、それを悪いとはっきり言えない大人、大人になっても人を排除し合っている社会、問題は、そちらにあるのです。病んでいるのは、大人社会の方なのです。

オランダ研修報告レポート（2013・春）

2013年3月10日～3月25日に行われた春季オランダ研修を紹介して下さるのは、横浜国立大学の小野寺さんと日本イエナプラン教育協会会員の奥村さんです。
（奥村さんのオランダ研修報告は、協会会員ページに別途掲載させて頂いております。）

研修のプログラム内容だけでなく、施設の様子が詳細に語られているこの報告をご覧になった方はきっと、「オランダにすぐにでも行きたい！」と感じるのではないでしょうか。そのような方はぜひ！現在、夏のオランダ研修の参加者を募集中ですので、詳細を合わせてご覧下さい。

それでは、お二人の研修レポートをぜひお楽しみ下さい！

春季オランダイエナプラン研修の報告

横浜国立大学4年　小野寺里香

1. はじめに

私は、国語教育と特別支援教育を専攻し、将来は高校教員を目指しています。本研修に参加するまでは、アメリカのシティズンシップ教育のモデル「サービス・ラーニング」を用い、日本の高校で授業を行う団体に所属していました。また、CIL（Center for Independence Living）での仕事を通じ、インクルーシブ教育にとても関心がありました。本報告では、私が実際に学んだことを中心にさせていただきます。

2. 研修について

研修は、次のような日程で行われました。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

研修概要	
日程	内容
3/11(月)	イエナプラン教育の概要
	ペーター・ペーターセンについて
3/12(火)	Sint Paulus (kathorieke jenaplan Basisschool)小学校訪問
3/13(水)	ワールドオリエンテーション
	ステップ・プラン(教師のあり方)
	マルチプルインテリジェンス
3/14(木)	いじめ対策プログラム
	ストーリーライン
3/15(金)	jenaplanXL　中等教育学校訪問

講師のFreek Velthausz氏、Hubert Winters氏らのレクチャーを受けながら、要所でアクティビティを体験する、とても充実した研修でした。イエナプラン教育を概観する時間と、実践プログラムを掘り下げる時間とが、最新の教育テーマを織り交ぜながらバランスよく構成されていました。そのため、イエナプラン教育を理論的な面と、実践的な面の両面から学ぶことができました。

私が特に感銘を受けたのは、マルチプルインテリジェンスの「10のスペクトラム・ルーム」です。各インテリジェンスを象徴する部屋に入り、そこからどのような学習がはじまるのかと思索にふける時間は、とても楽しいひとときでした。

Photo:小野寺里香
言語・語学インテリジェンスの部屋

3. Sint Paulus小学校訪問

小学校訪問では、先生のあり方、学校のあり方、子どものあり方、教室環境のあり方、全てがオープンであるという印象を受けました。それは、たった一日の見学にもかかわらず、クラスや子どもの個性がクリアにみることができたからだと思います。「画一教育」ではみえない子どもの個性が、「個別教育」であるイエナプラン校の教室では短い時間で発見することができました。「個に応じた教育」を目指すことで、こんなにも日本とは違うのか、ということに驚きました。

低学年のクラスには、「自分が今よりもっと幼かった頃の写真展」、「恐竜をテーマにした小さなミュージアム」など、子どもと先生のオリジナルが溢れる展示がありました。「リビング・ルームとしての教室」として、子どもたち自身が協同で作り上げた教室からは、そのクラスの個性が溢れ、あたたかみのある場になっていました。
また、どのクラスでも、「静かな学びの場」が保たれていることも、とても新鮮でした。私自身は、恥ずかしながら、本当の意味で学ぶことが面白いと感じたのは高校生の時でした。その時の「トリハダ」がたつ感覚は、静かに、胸の奥から湧き上がってきたことを覚えています。与えられて答えを求めるのではなく、本当の意味での”学び”に個々が出会っている場こそが、「静かな学びの場」であるということは、実際に学校に訪問できたからこその気づきであったと思います。

Photo:小野寺里香

Photo:小野寺里香

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

4. 3Rsから3Rs+5Cの教育へ

本研修に参加する前に、「ミラセン2012」というイベントでリヒテルズさんの講演に参加する機会がありました。そこでお話していただいた「3Rs(Reading,wRting,aRithmetics)」から「3Rs+5C(Communication,Critical thinking, Cooperation, Creativity, Citizenship)」へという考え方を体現しているのが、まさにイエナプラン校であると思いました。

Photo:小野寺里香
出典元:リヒテルズ直子氏のプレゼンテーション

日本の教育を、「これからの未来を生きるための教育」に転換していくために、イエナプラン校に学ぶことはたくさんあると思います。その第一歩として、私自身は「+5C」に目を向けて、教育を考えていきたいと思いました。この5つの力こそが、個々がのびのびと自分自身を発揮するために必要な力なのではないかと考えるからです。

5. まとめ

「個別教育とは、一人ひとりに声をかけて手厚くすることではない。個人個人を尊重するということなのである。見守ることなのである。(Freek氏の言葉より)」

私は、今回の研修で「”自立と共同”の個別教育」の「ほんもの」に出会うことができたと思います。イエナプラン教育を学ぶことは、社会の理想のあり方や、人の幸福な生き方を学ぶことにもつながるのではないかと感じました。近い未来に、私自身が教師として教壇に立つことができた時には、本研修で出会った全ての人から感じた「自分自身が幸福に向かって成長し続ける姿勢」を大切にしていきたいと思っています。その姿勢こそが、これからの未来を生きる子どもたちと共に学ぶ立場の教師にとって、最も重要なことなのではないかと思いました。

最後に、この場をお借りして、春季オランダイエナプラン教育研修でお世話になった全ての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

Photo:小野寺里香

Photo:小野寺里香

【参加者募集中!】
~2013夏季オランダイエナプラン研修~

■日程■　8月18日(日)~8月23日(金)
※日程詳細は協会HPでご確認下さい。≪http://news.japanjenaplan.org/?eid=17≫

■参加費■　成人860ユーロ(会員830ユーロ)
※参加費に含まれるもの、含まれないものがございますので協会HPでご確認下さい。

■定員■　15名(最低実施人数11名)

■締切■　2013年5月31日
※定員に達し次第募集を終了致します。最低実施人数11名に到達しなかった場合は研修を取りやめますので、航空券の予約購入をお見合わせ下さい。

■お申込■　日本イエナプラン教育協会メールアドレス≪info@japanjenaplan.org≫まで、件名を『オランダ研修 申込』とし、氏名・年齢・所属・住所・連絡のつきやすい電話番号・メールアドレス・日本での連絡先をご記入のうえ、お申し込みください。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【会員特集】～イエナプラン教育と出会って～

イエナプラン教育に共感し、メーリングリストやFacebook、講演会に参加しているイエナな皆様！
『日本の教育をより良くしていきたい』と同じ思いで集まった会員の方々が、どのような活動をされているかを特集をさせて頂きます。
住んでいる場所は離れていても、時には疲れてしまうような事があっても、様々な現場でチャレンジしている仲間がいます。この【会員特集】が皆様の元気の素となり、ネットワークを広げるきっかけになれば幸いです。
今回は柏市議会議員の山下洋輔さんが、イエナとの出会いや、【一般社団法人教育共創研究所】を設立されたきっかけなどを語って下さります。どうぞお楽しみ下さい！
（一般社団法人教育共創研究所HP：http://www.k3japan.org/）

イエナプラン教育と私―教育共創研究所に至るまで

教育共創研究所代表理事／柏市市議会委員　山下洋輔

【個人塾での実践】

私とイエナプラン教育との出会いは、大学1年生の時。教育学部の授業でした。自分自身が受けてきた教育を客観的に捉えるとともに、オルタナティブ教育とくくられた教育の可能性に興奮したのを覚えています。

学生時代は、アパートの一室で塾の経営に関わっていました。小さい塾なので、同じ教室に、同じ学年で、同じ教科の授業を行う事ができません。見よう見まねで、大学で学んだイエナプランやドルトンプランを実践していきました。家族的な雰囲気の中、学びの共同体が育っていくのを目の当たりにすることができました。

【高校での実践】

大学院を卒業後、土浦日大高校に勤めました。毎日が格闘でした。クラス経営、授業、部活動経営、生徒（生活）指導、学生寮舎監、生徒会活動といった生徒との関わりの他にも、生徒募集や教務、庶務などの校務分掌、PTA活動、諸々の事務処理、先輩方や保護者、地域の方々とのコミュニケーション。

自分自身の行動や言動が適切であったか、学校とは何か、教育とは何か、考える毎日でした。 問題クラスと見られたけれど、ノビノビと個性的だった学級。

監督はサインを出さなかったけれど、県大会に優勝し、関東大会に出場した軟式野球部。

ともにご飯を食べ、ともに掃除し、ともにお風呂に入り、ともに学び、ともに暮らしながら、荒れ果てていた状況から温かく落ち着いた学生寮。

Photo:山下洋輔

これらの教育実践を振り返ると、イエナプラン教育のエッセンスが活かされています。学級経営では、多様な生徒同士の学び合いが生まれました。学生寮での勉強会は、ブロックアワーを実践しました。

【社会制度への働きかけ】

充実した教員生活でしたが、次第に、学校での教育だけでは限界があると感じるようになりました。家庭や地域の問題、社会全体の問題について考えているうちに、居ても立ってもおられず、2度目の卒業生を見送った後、教員を辞めました。大学院博士課程での教育学研究や、地域で生涯学習の活動（柏まちなかカレッジ）を経て、現在は、柏市議会議員として、議会から地域の教育に働きかけています。

※柏なかまちカレッジHP：http://www.kcollege.org/

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【オランダ視察をきっかけに】

2012年4月、念願のオランダの教育を視察する夢が叶い、ダイナミックな動きが始まります。リヒテルズ直子さんのご助言を得て、教育共創研究所を立ち上げることになったのです。

「改革は、草の根から広がっていくほうが力強い」、「改革には、連帯が必要」、「デモクラシーを実現させたい」、そんな話で、リヒテルズさんと熱く語り合いました。語り合った教育への思いを実現するためにも、連帯していくための組織を作ってはどうかとのご助言を頂き、同行した長井悠さん（ハバタク株式会社取締役）とともに、教育共創研究所が始まりました。

視察にて：リーン先生と（右が山下・左が長井）

視察にて：教室風景

【草の根のスタイルで制度化への働きかけ】

教育共創研究所は、地方からボトムアップで、日本の教育を変えていくプラットフォームです。教育に心ある教員、議員、事業家、市民活動家、研究者が、孤立するのではなく、連帯して、小さな波から大きなうねりを生み出していくような仕組みです。

日本での視察を通し、素晴らしい教育実践に出会いました。しかし、その多くが、校長や教員個人の情熱や力量によるところが大きいのを感じました。フリースクールやNPOについても、個人の時間・労力や資金に頼っている部分が多く、リーダー1代限りの実践に終わってしまいます。継続性がありません。これは、教育を受ける子どもにとって、当たり外れが大きい物でもあります。

私たちは、素晴らしい教育実践を制度的に支えていくために、地方議会から教育委員会に働きかけていくことが、一つの解決策になると考えています。制度化し、教育行政の中で予算化していくことが必要なのです。

地方自治体の教育委員会では、教職員や学校施設の管理、教室など子どもの学ぶ環境の整備、給食、通学路の安全確保など、小中学校の運営を行っています。いじめの問題でも、教育委員会が問題になっています。現場の課題は、教育委員会が関わっているものです。

©一般社団法人　教育共創研究所

私たちは、全国の地方議員とネットワークを結び、教員をはじめとする教育実践者、研究者と情報を共有し、教育をより良くする議会質問を、共に創り出していくため、定期的に勉強会を開催しています。全国で共通した課題は多いものの、議会質問は議員一人で考えている場合が多いものです。質の高い質問を、全国の議員で共有できれば、一つの自治体でのアクションが、全国に波及していきます。これが、草の根からの教育改革と呼ぶ所以です。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【教材の共有で気づいたこと】

このアイデアは、オランダでの授業を見学したことがきっかけでした。オランダでは、決められた教材にそって授業を進めていた事が衝撃でした。私が教員だった頃、授業研究のために、史跡を巡ったり、研究書を読んだりして、長期休暇を過ごしていました。教員の多忙化が叫ばれる中、もし時間があったら、生徒と過ごす時間や教材研究の時間が増えると願っていました。しかし、オランダでは、教材研究の負担も抑えられています。

一度、私の固定観念を壊して考えれば、決まった教材を使用した方が、授業の一定の質は確保されます。学校で統一された教材を使えば、出張時に授業の振替をしなくても、他の教員に授業をお願いできます。オランダでは、教員のワークシェアリングが可能になっています。他の教員が入る事で、授業や教室がオープンになります。教員は、教科内容だけではなく、教授方法の研究に力を入れることになります。

議会質問の共有化に話を戻します。議員の場合は、もちろんすべてが教育に詳しいわけではありません。理解不足から、教育現場に迷惑をかけている議員が多いのが事実です。もし、議会質問の共有化を図れれば、教育現場にとっても、議員にとっても、プラスに働くと感じています。

多忙な議員が、より社会に有益な仕事をしてもらうためにも、そして、より広く素晴らしい教育実践を実現していくためにも、私たち教育共創研究所は活動を続けていきます。

『イエナプラン教育とシステム思考』ワークショップより

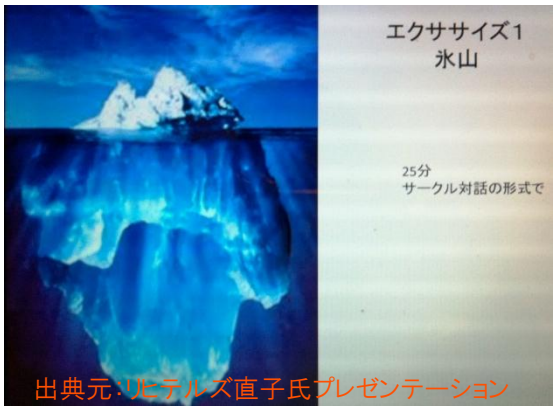
4月21日（日）にリヒテルズ直子氏によるワークショップが行われました。今回のテーマは**『イエナプラン教育とシステム思考』**です。 37名の参加で始まったワークショップは、サークル対話からスタートしました。やはり、お互いの顔がしっかり見えると安心します。リヒテルズさんによるプレゼンテーションと問いかけを通して、ものの【見方】・【考え方】・【捉え方】について、深く考えさせられた方は多かったのではないでしょうか。それでは、4時間のワークショップの中で、特に印象に残った事を中心に、その様子をご紹介させて頂きます。

システム思考について考える

報告：田村悠子

【エクササイズ1：氷山】

氷山の全体像を自分がどう捉えているのか…。
身近な問題を挙げて、じっくり深く掘り下げて考えるエクササイズがスタートしました。



出典元：リヒテルズ直子氏プレゼンテーション

参加者から、最近起きた深刻な（身近な）問題が次々とあげられていく中で、私達はこれらの問題について、

1：人々の対応
2：問題解決のために何をしているか
3：過去に同じような事が起こっていないか

などを考察していきました。そこから見えてきたのは、問題というものは組織体系化された場合が多いという事です。

「組織体系化された問題の裏には誰にも問い直されない態度や信念がある場合が多い。海面下に隠れた氷山の一角をどう可視化するのか？」

リヒテルズさんのこの指摘に、改めて物事の捉え方について考えさせられました。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

例えば、最近日本ではTPP問題が声高に叫ばれ、報道などでも目にする機会が増えました。しかし、私達は日本側の視点でこの問題を捉えがちで、賛成なのか？反対なのか？氷山の一角ばかりを見て議論をしています。それでは、海面下にある全体としての問題、アメリカ大統領や参加各国のTPPに対する真の意図…、についてまで可視化はできません。

身近な問題の具体例で物事を見直してみると、裏にあるものを可視化する事によって初めて、**『問題を大きく捉える事ができ、ストーリーを共有する事もできるのだ』**という事が分かってきます。そして、そこから議論が発展していくのだと気づかされました。

サークルになって意見を出し合う

意見を共有し、話し合った事を書き出す

【プレゼンテーション1：システム思考のごく初歩】

さらに、整理された道具箱と乱雑な道具箱の絵を例に『システム思考』の話が展開していきました。その中で大変印象に残ったリヒテルズさんの言葉があります。

「今の日本の教員はこの乱雑な道具箱の道具の1つになってしまっている。つまり、誰か欠けて1人いなくなってもどうってことない。なぜならシステムとして関わり合っていないから。反対に、整理された道具箱であれば1つかけると崩れてしまう。つまり、システムとして、チームとして関わり合いがあるから、そこにいる教員1人1人が大切な存在となる。」

私は現在高校で講師をしていますが、自分はどちらの道具箱（組織）に属しているのか考え、思わずため息。自分自身が所属するチームを、システム思考的に捉えていなかったし、私自身も同僚から捉えられていないであろう事を思い、痛いところをつかれたような気持ちになりました。同時にこの言葉も印象に残りました。

「システム行動を学ぶと、自らが外から見て変化を起こすことができる。」

自分が生徒達にこのような事を求めるならば、まず『自分から変わらないと。』と、反省した瞬間でした。

【プレゼンテーション1：5つのディシプリン】

1：自己マスタリー　2：共有ビジョン　3：メンタル・モデル　4：チーム学習　5：システム思考

学習する組織（学校）のための**5つのディシプリン**の紹介がありましたが、自分の思いを話して共有し、自分の既存の価値観とは違うものをチームから学ぶ。違いを知った上で、どのように形を変え話合ったら問題を解決していけるのか…。システム化できるのか…。より良い状態を目指していけるのか…。という話でした。

イエナプラン教育は、この過程をまさに体現しています。サークル対話で、異年齢学級で、リビングルームとしての教室で、催しものを通して、子ども達はシステム思考の練習をしているのです。**『イエナプラン教育はシステム思考なのだ』**という言葉に納得です。

【プレゼンテーション2：エドワード・デ・ボノの6つの帽子】

ワークショップではいくつかアクティビティを行いましたが、特に私が面白いと感じたものがあります。それは、2人1組になり、相手の目を見て黙って押し合いをするというアクティビティでした。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

アクティビティを終えた後、リヒテルズさんから**『相手とどのような状態の時に押しやすかったか』**という問いかけがありました。この問いに、いくつかの意見が出てきましたが、その中に**『押しすぎでも、引きすぎてもやりにくかった。相手と力が均衡している時が安心して押せた』**というものがありました。

「対立議論をする時も、均衡した状態でないと良い話し合いができない、体制を整えて自立しないと議論は深まらない。」

と、リヒテルズさん。それを実感するための議論の練習を体験しました。
【エドワード・デ・ボノの6つの帽子～ラテラル思考～】（※会員HP、奥村天志氏のオランダ研修報告参照）を使っての議論です。テーマは**『検定教科書の是非』**。1人議長を選出した上で、参加者の半分がネガティブな帽子（黒色の帽子）を、残り半分がポジティブな帽子（黄色の帽子）を被ったとします。まず、グループごとに次々と意見が出されました。

【教科書を検定は必要】

・国民性が統一されない。
・公平性が失われる。
・制度を変えるとお金がかかる。
・教員が教えるのが大変になる。
・間違った情報が出てくるかもしれない。

【教科書の検定はやめるべき】

・地域の特性に合わせた教育ができる。
・クリエイティブな教育ができる。
・先生のやる気が出る。
・個性が出せる。
・自由に選べる。

自分の本当の思いとは違うかもしれないけれど、帽子を1つ被っただけで、**『重い問題に対しても発言しやすくなる』『自分と違う意見を体感できる』**そんな空気がありました。意見を拡散させ、そこから発展的なより良いものを作っていく。まさに、**『未来の市民はシステム市民なのだ』**というリヒテルズさんの言葉に、今何が自分達の社会に必要なのかを考えさせられた、あっという間の4時間でした。

ワークショップの感想　～参加者からの声～

講演・ワークショップで印象に残った内容や感想について

・黒い帽子と黄色い帽子の話が印象に残りました。参加者の多くの意見を本人の立ち位置と独立に組み上げることができるすごい方法だと思いました。議論に慣れていない教員も生徒も楽しんで積極的に参加できると思いました。また、システム思考ができるようになることは、短期的には難しいので、まずは自分の教科指導でイエナプランからの良いところ取りの試し授業をチャレンジしていきたいです。明日からやってみます。

・自分の立ち位置が重要であること。色んな立ち位置の人が集まってそれぞれ受け取っている。受け取り方も違うでしょうが、遠くでも繋がれる仕組みが今はある。面白い広がりがありそうなので希望が持てます。ディスカッションがやりづらいと感じる時には、6つの帽子を使ってみます。

・同志がたくさんいるということ、同時に組織の中で生かすことができないという悩みは同じなのだということも分かった。

・エドワード・デ・ボノの6つの帽子が印象に残りました。最後にイエナプラン教育の日本でのあり方、進め方について意見が交わせて良かったです。

・システム思考からイエナプラン教育を考える…。とても新鮮でした。もう少し学びたいです。

・様々なアクティビティが体験できて良かった。皆がそれぞれの立場で感じていることが同じだと共感できたのが良かった。

・学校現場は大変なんだなと思いました。自分の考えをきちんと持てることがスタート地点だと思います。仲間を

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

増やす、子どもに伝える、地道に教育していくことが大切だと思います。

・イエナプラン教育を体験でき、システム思考が理解できました。

・最後のディベートの進め方（帽子を使ったやり方）が良いと思いました。

・もう少しワークの時間（グループでの時間）を体験したい。教育環境のシステムに問題があるが、イエナプラン教育はそれに対して福音をもたらすことができるのか…？印象に残りました。

・最後のフリーサークルでの自由な発言と、黒と黄色の帽子を使ったディベートが印象に残りました。

・『システム』の捉え方が難しかったです。多様な全体（リゾーム構造？）を見る眼を養うというのは全く賛成ですが、『システム』という言葉の持つイメージが難しかったです。

・システム思考について理解が深まりました。これからの時代に必要な内容であると考えます。できるところで挑戦したいと思います。

・受け身ではない参加ができて良かった。

・イエナプラン教育の、社会や実生活との繋がりを重視しているところ、その仕組みを社会がきちんと支えていることが分かりました。自分も実現に向けてつながりを持っていこう！と感じました。

・最後のフリーサークルでの参加者の話が深まって自分に響いた。

・黄色と黒の帽子の話など、実際に現場に取り入れられそうな話が聞けて、実践して学べて理解ができて良かったです。

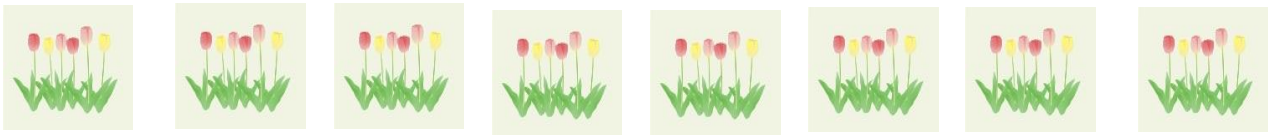
・様々な方と話せて良かったです。システム思考、もう少し詳しく学びたくなりました。本を読んでみます。

・どのお話も目からうろこでした。皆さんが真剣でエネルギーをもらえました。グループで学校について話し合った時、皆同じような考えを持っていて驚きました。すぐできることもあると思いました。『システム思考』が分かりやすかったです。

・私は教師ではなく一保護者として参加しました。今の教室環境について問題を感じていましたが、自分に何ができるのかとずっと考えていました。まず、自分で立つことが基本であると痛感しました。教師でない自分に何ができるのか？問題意識を持ち続け、勉強していきたいと思いました。

・『システム思考』と『イエナプラン』がよくつながりました。

・今回初めてワークショップに参加しました。『教育』は大きな問題を抱えていると思っていましたが、それも本当に氷山の見えている部分だけだと実感できました。現場の方の声を生かした本作りをしないと！と思いました。



【リヒテルズ直子さんへのご質問・ニュースレターへの感想】を募集します。

オランダの教育・社会について、リヒテルズさんに聞いてみたいことはありませんか？ご質問・感想をお送り頂く際は、件名に**「質問箱」「サークル対話実践談」**とお書きの上 **info@japanjenaplan.org** までお送り下さい。

※紙面の都合上、頂いたご報告やご質問をこちらで編集することがあることをご了承下さい。皆さまからのお便りをお待ちしております。

Copyright©2011 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

ー・ーリヒテルズ直子の 質問箱 ー・ー

Q1. イエナプラン教育を受けた生徒たちは社会に出たときにどんな大人になっているケースが多いのでしょうか？

A：リヒテルズ直子より

正式に調べてみたわけではありませんので、なんとも回答のしようがありませんが、イエナプラン教育が目指しているのは、自分の意見をきちんと言え、他の価値観、文化、宗教、などを含み、どんな違いをも排除しないインクルーシブな人間として、意欲的に対話を求め、意欲的に社会に参加する人間であると思います。

現に、イエナプランの出身者のなかには、オランダの自由民主党に属している教育文化省の次官もいれば、社会党の党首もいます。一般的に、国内や世界で起こっている時事に関心が強く、社会参加意識が強いのですが、だからと言って、どの人もどれかの政党に属しているという風ではなく、どの人も、自分なりの政治的立場を自覚できており、常に、党派性を超えて、異なる立場の人と対話する準備がある人たちであると感じます。少なくともイエナプラン教育がめざしている人間像とはそういうものです。

★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想をお聞かせください。

info@japanjenaplan.org　　心よりお待ちしております。

★協会のFacebookページができました。

Facebookをご愛用、ご活用の皆さま、協会のページができました。
イエナプランに関心を持っている方や多様な教育に興味がある方が、お互いの活動や意見を共有できればと思います。お気軽にご投稿下さい。

★ニュースレターへ会員の皆さんのイエナ的活動や実践をお寄せ下さい！

イエナプラン教育に興味・関心を持たれている方々とのネットワークづくりをしていきたいと思っています。皆さまの活動（体験談・実践してみた上での悩みや失敗談など何でも）をニュースレターでご紹介させて頂き、イエナ的な活動の輪を広げていきたいと思っています。どんな小さな事でも良いので、info@japanjenaplan.orgまでお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

★各支部のご案内

東京支部	info@japanjenaplan.org
千葉支部	chiba@japanjenaplan.org
埼玉支部	saitama@japanjenaplan.org
京都支部	kyoto@japanjenaplan.org
福岡支部	fukuoka@japanjenaplan.org

★ニュースレター18号はいかがでしたか？4月21日にはリヒテルズさんのワークショップが開催されましたが、このような会を重ねるごとに、イエナプラン教育に共感して下さる方が少しずつ増えていて、とても嬉しいです。
ニュースレターでは今後も会員の方々の活動の様子を紹介していきますので、楽しみにしていてください。　（編集：田村）

Copyright©2010 日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.